

や やるぞ～ ま まけないぞ～ が がんばろうぜ～ た 楽しい学校になるように

秋風とともに『人・歌・心』！

歌は世につれ、世は歌につれとはよく言ったものです。

あの曲を聴くと、あの時代を思い出す。あの歌が流れると、あの出来事が蘇る。そんなことを経験したことはだれでもあるでしょう。自分が一番好きな歌や曲を一つだけなんて言われたら頭を抱えてしまいます。

本当にすばらしい音楽とは、時間と空間を超越するものです。昔の曲でも今の曲でも、すばらしいものはすばらしいし、外国の曲だって歌詞なんてわからなくてもだれもが感動できる曲はたくさんあります。

私の場合、どうしても一曲だけ選べと言われれば、やっぱり、かぐや姫の『神田川』でしょうか(古い)。

大学時代に過ごした東京のアパートの近くに、この歌詩の舞台になった銭湯があり、たいへんお世話になりました。あれから30年以上が経過し、都市開発の波に押されもちろん今はありません。当時、小さなセッケンをカタカタとならして肩を寄せ合って帰る素敵な相手などいるはずもなく、戻るアパートは4畳半どころか3畳しかなく……。

さて、音楽の魅力を感じる場面は、大きく分けて2つあると思います。

一つは、「音楽を一人で楽しむ」ことです。様々なデバイスを通して音楽を聴いたり、コンサートや演奏会を楽しんだり、カラオケで満喫したり。でも、これはある意味では自己満足の世界かもしれませんね。

もう一つは、「音楽をみんなで楽しむ」ことです。吹奏楽部や合唱等の音楽サークル、そして今回の合唱発表会の合唱がそうです。

つまり今回の合唱は言うまでもなく、個人種目ではなく団体種目です。

白翔祭の「全員リレー」、あれは『心をつないだ』ものです。これをあえて『縦の団結』としましょう。それに対して今回は『心をひとつに』することが要求されます。いわば『横の団結』なのです。体育祭の種目で例えれば、リレーではなく、N人N+1脚でしょうか。ですから、一人がこけたら皆こける。心がばらばらだと一步も先に進めないのです。

だからこそ、合唱は音楽指導の枠を越え、生徒の成長の絶好機だということを先生方も重々承知して学級経営や指導にあたっています。

特に3年生にとってはこれが最後のクラス合唱。卒業して数年後に再会する機会があったときに、お互いの脳裏に今回の合唱曲がBGMとして流れるようなそんな合唱音楽会であってほしいものです。